

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ(学校)名 重症心身障がい児の学びを支える

テーマ 重症心身障がい児の教育の支援に向けた取組
～医師から学ぶ、学校における重症心身障がい児の理解～

取組のポイント・成果

＜取組の内容とポイント＞

- ・期日：令和6年11月20日（水）16：00～16：50 当校会議室 参加者12名
- ・活動の内容：教育と医療の共通な願い「子どもたちの心と身体を健やかに守りたい」をもとに、子どもたちとの触れ合いや学び合いを通して感じることや悩みについて語り合う。「児童生徒理解」「保護者との情報共有」「学校での取組の大切さ」について医師と意見交換した。
- ・期日：令和6年12月18日（水）16：00～16：50 当校会議室 参加者11名
- ・活動の内容：教育と医療の共通な願い「子どもたちの心と身体を健やかに守りたい」をもとに、子どもたちとの触れ合いや学び合いを通して感じることや悩みについて語り合う。「児童生徒理解（思春期）」「発作への対応」「他者との関係性」「卒業後のこと」について医師と意見交換した。また「主治医との連携」についても話題となった。
- ・期日：令和7年 1月31日（金）16：00～16：50 当校体育館 参加者49名
- ・活動の内容：勉強会を通して話題となった「教育と医療との連携」について感じていることや悩みについて全校教職員で共有し、医師と意見交換することで、重症心身障がい児の理解につなげた。

＜成果＞

①

②

③



① 勉強会では、参加者が児童生徒と関わる際に大切にしていることや悩み等について、意見交換をすることができた。

② 前回の勉強会で取り上げられなかった話題について意見交換できた。

③ 医師のご意見やご助言を聞くことにより、「医療と教育と保護者の連携」等についての具体的な対応策を得ることができた。

今後の課題

- ・勉強会で「子どもたちにとって学校が一番いろいろな人と関わる、心も身体も一番成長する時期である」という医師の言葉が印象に残っている。
今後も（重症心身障がい児を含む）子どもの学びを支えるために、医師からのご意見やご助言から学んだことを基に自分の考えを整理し、実際の場面で対応できることが重要である。